

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500249		
法人名	有限会社 三愛商事		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	高知県土佐市高岡町甲1684		
自己評価作成日	平成25年6月29日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、入居者が住み慣れた地域の中で、ゆったりと安心して生活できるよう、常に労わりと優しさを持って、日々の支援に取り組んでいます。  
また、入居者と職員は和気藹々で楽しく暮らし、町内会にも加入し、地域の方との交流を一層深め、家族の協力を得ながら、共に支え合っているようなホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3970500249-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3970500249-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年8月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は古くからの民家と新しい集合住宅等が並ぶ一角に位置している。入居者は事業所近辺に居住していた人が多く、地縁的な結びつきをもっている。事業所として町内会に加入し、地区の一斉清掃や地元神社の夏、秋の祭りに境内の清掃を行うほか、地域の防災訓練に参加して地域との協力関係を築いている。近隣住民は事業所の植え込みにある野菜の世話に声をかけたり、苗や花を提供してくれ、また事業所の車の置き場所にも便宜を図ってくれている。管理者は、事業所と地域との自然なつきあいを大事にしており、地域に馴染んでいくことを目指している。また、管理者は介護のビジョンをもって、与えられた環境のなかで最大限の効果を出せるよう、職員と日々意見交換をしながら利用者本位のケアに取り組んでいる。特に、介護計画の作成では家族の参加を重視し担当者と管理者と一緒に話し合い、利用者が真に必要なケアプランの作成に努力している。管理者と職員の意見交換から事業所としての一体感が生まれており、それを力として今後とも発展が期待できる事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会や毎日のミーティングでケアについて話し合い、共に地域密着型サービス意義[理念]に基づき、意見交換しながら実践に繋げている。	毎日、朝と昼に30分以上ミーティングを行い、ケアの内容や疑問点等について事業所の理念に立ち返りながら意見交換をしている。利用者の安心した生活という理念が実現できるよう利用者を中心としたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の一斉清掃や自主防災訓練に参加し、ホームの外で地域の方と会うことがあれば挨拶を交わしたり、時にお花などを頂いたりする事もある。	利用者は地区出身者が多く、地域との結びつきをもっている。事業所として町内会に加入し、一斉清掃や、神社の祭りのときの清掃、地区の防災訓練等へ参加し地域の一員として活動している。近隣からも野菜づくりへの声かけや苗等の提供があり、地域との日常的な交流が根付きつつある。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事[花見等]を通して地域の方と交流する機械を持ち、利用者と接する事で、認知症の理解に繋げたり、介護実習などの受け入れ用意もしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からの現況報告や課題となっていることを議題にあげ、地域や家族代表からの意見や質問、情報提供などもあり、双方向的な会議となっている。話し合いを受けて、より良いサービスが提供できるように努力している。	会議では事業所の活動状況等の報告のほか、防災関連などその時々に関心の高い議題について話し合いが行われている。議事録は、活動経過や行事予定に利用者の暮らしの写真も載せた表紙を付けて家族に送付しているが、参加者が固定されており記録される意見が少なくなっている。	会議のメンバーに家族会会長だけでなく複数の家族の参加を依頼したり、地区長や、民生委員等の参加についても検討し「運営推進会議ガイドブック」も参考にしながら議題に沿った多方面からの意見交換が行われ、記録されることを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の講習に参加したり、解らないことがあれば市の担当職員に相談したり、指導を受ける等、その関係作りに努めている。	市や、地域包括支援センターとは、事故報告や介護認定調査の時に連絡を取り合うほか、制度上の疑問点などを気軽に相談できる関係が築かれている。法人代表者も市へ運営に関する相談等を行っており、事業所の状況が伝わっている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修などを通して身体拘束をしないケアについて、周知すると共に、利用者に自由に暮らして頂けるようにしている。車椅子の方も随時状態に合わせてベットで休んで頂くなど身体に負担が掛からぬよう努めている。	身体拘束となる禁止対象行為を全職員が理解し、利用者の思いや言動の意味を把握しながら利用者が拘束感を持たないケアに努めている。帰宅願望の強い利用者には、その原因を確かめ家族の協力も得ながら外泊や、趣味に関心を向けるなどして、自由で落ち着いた暮らしができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修への参加や日常においても利用者一人ひとりの身体状況の観察を行い、何かあれば報告し、職員同士が互いに意見交換できる職場を目指している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉会主催の研修会があれば参加し、制度を学んでいる。ホーム内でも職員会の日に発表し皆が理解を深め、共に学んでいる。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはその内容を一つ一つ説明し、家族の不安や疑問点に答え、理解と納得が得られるように努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に個別に意見や要望を聞くよう心掛けている。又家族会や、担当者会などを通して意見交換を行い、家族の意向をくみとるようにしている。	利用者からは毎日の会話を通して意向を聞き、家族からの意見は年2回の家族会で法人代表者も交え聞くようにしている。家族は県外在住者や入院中の家族以外の全家族が出席している。また、家族アンケートも実施しているが、家族からの意見や要望はあまり出されてない状況がある。	家族には事業所に遠慮して率直な意見を出し難い面があり、家族がより意見を言いやすい環境を作るため、家族同士の交流の機会や家族だけの話し合いの場を設けるなどの取り組みを期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れの際には、職員全員で情報の共有をしている。運営に関しても職員の意見や提案を受け話し合いながら対応している。	朝と昼2回のミーティングで職員と活発に話し合っており、日常的にケアに関する工夫や提案を聞いている。入浴チェアや加湿器、食器乾燥機、ケアで必要とする折り紙などの物品購入の要望に応えたり、処遇面の希望も管理者から代表者に伝えている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は毎月の勤務予定表を代表者に提出させて把握しており、有休、産休、育休等取得可能な環境を整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	固定職員に集中する事なく職員全体が外部研修を受ける機会を作り、研修で持ち帰った資料等の報告を基に職員全体で勉強会を開いている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	無理な勤務体制にならない時期に他のホームとの研修交流にてサービス向上の機会を作っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時前の面談で、本人の要望や不安などについても耳を傾け、できるだけ早くホームに慣れていただき、安心と信頼を得るように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時前の面談で、本人、家族の要望や不安などについても耳を傾け、ホームの方針等を説明し、安心と信頼を得るように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々のニーズを把握し、家族と話し合いながらホームでのサービス内容や他のサービスも含めて検討している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、家族同様に愛情を持って接し、共に暮らしていく者同志としての関係を築いていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族との関係性を大切にしながら、家族の協力のもとで共に支え合える関係を築いている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などが訪ねて来易い雰囲気作りを心がけ、ゆっくり話ができる場を設けている。また、馴染みの場所との関係継続できるように家族の協力を得ている。	利用者の家の周辺や地元をドライブして馴染みの人に会ったり、思い出のある場所を訪れたりしている。馴染みの関係がより把握できている家族に外泊やドライブなどの協力を依頼し、培った関係を維持することに努めている。また、近隣の住民とも馴染みの関係ができています。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の人間関係などを把握しており、トラブルになりそうな場合は仲裁に入るなど、利用者が孤立しないように配慮している。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も年賀状やお見舞いなど必要に応じてその方の現況を把握するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の利用者の言動や行動からその思いを把握している。又、困難な場合は表情や仕草、家族からの情報を得て職員間で話し合いながら本人本意の支援を行うよう努めている。	利用者と気の合う職員を担当に選び、きめ細かなコミュニケーションで、利用者の本意を把握するよう努めている。また、担当者も会話を重ねるなかで本意を汲み取り職員間で共有するようにしている。新規採用職員は経験のある職員と一緒に利用者に対応している。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを実施し入居後も家族への聞き取りや日常生活での会話の中から生活歴などを把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状況やその有する力等については日常生活の中で総合的に把握している。ミーティング等で職員全員が情報を共有し、話し合いながら現状把握に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会では家族と担当職員等で話し合いながら意見交換を行いながら、利用者に必要な介護計画を作成している。	介護計画のモニタリング結果やアセスメントの内容に基づき、家族、担当者、管理者で構成する担当者会で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。家族は担当者会に必ず出席し介護計画案に気づいた点を上書きして話し合い、意見を反映するようにしている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の中で生活記録を作成し、ミーティング等で職員間で情報を共有しながら、その中で気づきや工夫をしながら介護計画の見直しをしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に合わせ、可能な範囲で既存のサービス以外に通院や手続きの代行など柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の踊りを見る機会を設けたり、利用者と職員で共同作品を地域主催の展示会に出品する事で本人の力を発揮してもらったり、他の利用者の居室にも作品をプレゼントしたりする事で、生きがいを見出し、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、納得が得られるかかりつけ医と適切な治療が受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医で受診している。受診は家族対応を基本とし、必要に応じて職員が支援している。受診結果は家族からの報告を受診記録や申し送りノートに記録し職員間で共有している。協力医療機関からの往診を受ける利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護(井上病院看護師)や協力病院等の看護師に現況を伝え、相談しながら適切な受診やケアが受けられるよう支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状況等について情報交換を行い、安心して治療が受けられるよう支援している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等の対応については、日頃から家族には利用者の現況や今後起こりうるリスク等について説明し、毎月始めには手紙などでも報告し、今後のことについても話し合いを行っている。	入居時に看取り介護の指針に基づき説明し、家族から事業所の方針への同意を得ている。利用者の状態変化に応じて話し合っているが、最終的には医療面での安心を求めて入院しており、事業所での看取りの事例はない。今後の看取りに向けた体制の検討を行っている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急法を学ぶ機会を持ち、急変時には落ち着いて対応できるよう、都度話し合い、初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでの防災訓練を実施すると共に、地域での自主防災訓練にも参加させていただき、地域との協力体制を得られるよう、関係作りに努めている。又、今年は自治会より案内を頂き、土佐市南海地震講演会にも職員が参加し、地域との協力体制を構築できるよう努めている。	防災訓練は、夜間想定を主として年2回実施しているほか、地域の防災訓練に年1回参加している。自主防災組織の一員にもなっており、地域との協力関係を保つようにしている。近隣には火災時の事業所の避難口を伝えており、応援が得られよう関係の維持に努めている。水や食料は3日分を備蓄し、期限表示して管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや傷つけるような言葉には注意しながらケアを行っていくよう職員に周知を図っている。	ミーティングにおいて「常にいたわりとやさしさを心がける」という事業所理念を意識づけしており、利用者への同じ言葉かけでも声の出方によって受け取りが違ふことに配慮し、人格やプライドを傷つけないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に対しては、可能な限り自己決定できるよう、利用者に話を聴き選択できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースにならないよう職員一人ひとりが自覚し、利用者のペースに合わせたケアを心がけ、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得ながら、清潔に気持ち良く過ごしてもらえよう、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては利用者にも意見を募り、利用者が好みそうな献立を作成し、利用者にも食事前の準備や台拭きなどできる事をして頂き、皆で食事が楽しみなものであるような取組みをしている。	献立は協力病院の栄養士が作成する基本メニューから、利用者の嗜好に合う調理内容にアレンジしている。食事内容の充実に力を入れ、味付けを特に大事にし、また利用者の咀嚼状態に合わせて段階的にきざみ食にもしている。また、利用者にはできる範囲で食事の手伝いをし、職員は親しく会話しながら食事の介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調把握に努め、栄養バランスや水分量が確保できるようその方に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛けしながら、見守り介助必要な方に対しては直接介助している。又、隔週水曜日に訪問歯科院が来られ要望にあわせた治療も行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎の排泄パターンの把握、それに応じた支援に努めている。必要な場合は介護計画書を作成し排泄の自立に向けた取組みを行なっている。	利用者のできる能力を維持することを基本に、介護計画にも排泄の感覚を知ることや排泄のリズムをつかむことをあげている。排便のチェック表を利用しながらそれぞれのパターンを把握した支援を行い、介護度の高い利用者も布パンツを着用してトイレで排泄できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や散歩(リビング歩行)、水分摂取好みの飲み物(ヤクルト、牛乳等)を摂取して頂き出来るだけ便秘にならない様、医師にも相談しながら支援している		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に添って入浴支援を行っているが概ね午後入浴が習慣となっている。又、ホームの入浴パターンが徐々に定着した事例もある(入浴嫌いな方)	15:00頃からの入浴が定着しており、2日に1回の割合で利用者1人に職員が1人の対応で入浴支援を行っている。体調やその時の気分に応じて、シャワー浴や、足浴も行い、清潔の保持に努めている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況にあわせ自由に休息したり、昼食後の昼寝タイムが定着している。今後昼食後の昼寝については検討しながら安心して眠れるよう支援していく。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬については気を配り症状の変化があれば直ぐに家族に連絡し、医師の指示を得る様にしている。職員間で申し送りやノートにも記載し皆が確認しながらきちんと伝達している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや折り紙など利用者一人ひとりの思いや嗜好を取り入れながら、楽しみごと気分転換等の支援を行なっている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力も得ながら家への帰宅や馴染みの美容院等に出かけ、ホームでも地域の方と一緒に花見にも出かけたり、季節毎の花などを見に出掛けたりしながら戸外に出かけられるよう支援している。	季節の花を見るドライブや、商店街への買い物等の外出支援のほか、天候のよい時は、庭に椅子を出して外気浴を楽しんでいる。また、体調に留意しながら周辺の散歩にも出かけている。歩く能力を維持するために、リビング内の歩行などをケアに取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望に応じて自分で小額の金銭を所持している方も居られる。買い物には家族や職員と一緒に出かけ皆が協力しながら支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙でのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節に応じた花や壁飾りをして気持ちよく(居心地よく)過ごせるよう工夫をしている。	季節の花などを折り紙細工にして壁に飾ったり、利用者の折り紙の飾り物を天井に吊るしたり、利用者の趣味を活かした飾り物で親しみのある空間を作っている。ソファは利用者同士で団欒ができるよう配置され、畳の間や、事務室にも畳を敷いて和みの雰囲気を出している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆どの方がリビングのソファを好まれ、そこで思い思い、気のあった方と楽しく過ごしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真やぬいぐるみなど、各自の馴染みの品物を置かれその人らしい居室となるようお心地の良い空間となっている。	居室には馴染みのタンスや物入れ、テレビなどが家族の協力で持ち込まれ、他の利用者から贈られた折り紙細工や自分の家族の写真、馴染みの人形などがあり、家具は利用者それぞれが居心地良く過ごせるよう配置されている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自ができる事できない事を見極めながら、「できること解る事」への取組みをされ安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない